

土砂災害の脅威

西米良村音西米良中学校

二年

中武

詩音

令和四年九月十八日、この日に何があつた

が知つていますか？この日は鹿児島県に台風

十四号が上陸した日です。この台風十四号は

非常に強力が台風で、鹿児島県の隣県であり

私の住む宮崎県の西米良村にも甚大な被害を

及ぼしました。

当時中学一年生だった私は、三連休の真っ

ただ中で、家で家族と過ごしていたところ

台風十四号の被害にあいました。私たちが中

心地区から少し離れた山の近くに住んでいて

家の裏では土砂崩れが起き、道は土砂で遮ら

れ、一時は家の周りから動けないう状況になリ

ました。

その経験から、土砂災害の恐ろしさを身を

もつて体感しました。

土砂災害の恐ろしいところには、その破壊力

です。私の家の裏には、小さな倉庫がありま

した。小さいといつても人十人入るくらいは
 ありました。しかし土砂崩れは、その倉庫を
 ミメートルほど離れた車まで押し流してしま
 いました。近くにありた木はなぎ倒され、家
 の隣には二メートル以上もの土砂が堆積して
 いました。その破壊力はすさまじく、あと少
 しで家に直撃していた、と考えるとゾツとし
 ました。よく、自然の前には人間の力も無カ
 と言われますが、本当にその通りです。防災
 教室の授業で土砂災害の動画は何度も見まし
 た。自分の目で直接見ると、動画の何倍も
 恐ろしかつたです。
 台風の影響影響もあって、私の家では停電と断
 水が四日以上続きました。もちろん電気が水
 が使えないため、料理をしたり、お風呂に入
 りたりはできませんでした。とくにエアコン
 が使えないので、とても暑苦しかつたです。
 ほかの家電も使えなかつたので、電気や水が
 使えるようになるまでの生活はとても大変で
 した。

また、電気ガ水が使えるように左った後と
 大変でした。土砂崩れで倉庫が押し流され車
 とぶつかつたせいで車は修理に出さないとい
 けなくなりました。長い間修理に出しました。ほか
 にも堆積した土砂をどけれないといけななど
 の苦勞がありました。
 さらに村全体で道が崩れるなどの土砂災害
 の被害があり、本来は九月二十日は学校の予
 定でした。が、休校になつてしまいました。
 そんな土砂災害ですが、土砂災害が起きる
 前、起きた時にどんなことが大事か考えてみ
 ました。
 まず一番大事なのは日ごろの備えです。電
 気ガ水は使えなかつたですが、家には備えて
 あつた非常食など、電気ガ水がなくとも食べら
 れるものがあり、食事をすることかできまし
 た。また、LEDライトが使えないので、代
 ちりにランタンなどを使つて明るくしました
 マウイフた災害時などの、いざというとき
 必要なものには多いので、備えをすることには大

切なんだ、と思いましたが。

そして、人と人で助け合うことも大切なことですね。被災した時、近くに住んでいたり、この家は私の家より被害を受けておらず水が使えるたので、一日一回水を分けてもらったり、お風呂に入らせてもらったりしていました。水は生活するため欠かせない存在なので、とても助かりました。災害時など、大変な時は人と人で助け合うことが必要だと思います。ありがとうございました。

台風十四号が上陸し、停電が断水になってから五日後くらいに電氣も水も使えるようになった。また土砂崩れで流れてきた土砂は、父が祖父たちが除去してくれて、今ではほとんど被災前と変わらず、台風十四号の面影はありません。

台風十四号から復興はできましたが、私はあの経験を忘れず、これから生きていくように思います。

土砂災害は決して親切ではありません。土

砂災害はどんななものであろうと恐ろしく、人

の力では止めろくとはできませぬ。ある日突

然起きていとも簡単は命を奪つていきます。

だから起きだす砂災害から学び、起きろかも

し水ないま砂災害に備えなければなりません